

西原の方言調査から

翁長編

翁長の方言調査では、西原善栄さん、西原裕昌さん、城間文子さんからたくさんのお話を教えていただきました。

そのなかでも今回は、俗信や習俗に関することばについて、少しばかり述べてみたいと思います。

前回の町史だよりでもふれましたが、少年期を翁長村で過ごした歴史文化研究家・比嘉春潮が著した「翁



△翁長の興味深い話をたくさん教えていただいた3名の方々

長旧事談」には、明治期の翁長の様子が記されています。

その中で、春潮は「いちじまのこと」として次のように書いています。

いちじまとは、人を呪う特殊な能力を持つてゐる者。

たいてい女で母から娘へと、母系によつてこの能力は伝わるもののである…(略)…

血統的の「いちじま」でなくとも、非常に深く人を恨んだりすると「いちじま」と

同様に考えられている。あまり他人の悪口ばかりいう奴は、

あいつは「いちじま」するかもしれないなどといわれる…

(略)…

春潮のいう「いちじま」ということは翁長に今も残っているのかしら、と思ひながら三名のみなさんにうかがつて

みました。すると「『いちじま』ということばはある

よー」とのこと。

お話しによると、「いちじま」とは、とても他人を恨んで呪う人のことを指すようです。しかし「いちじま」が、血統的なものであるについてはちよつと分かりませんでした。

なんでも、「いちじまする人はねー、竈の前でよー、頭からふるしきかぶつて、顔かくして棒で灰をチチチャーチチャー(つつつ)して呪う人の名前いうて呪うわけさー。でもいちじまする人は最低の最低さー。」とのこと。

このようなお話しは、めったにうかがうことはできません。そういう意味では、むかしこの俗信や習俗を知る意味でも貴重であるといえます。

ちなみに春潮はほかにも、「かなぶやあ(元来、幽霊や化け物が見えるなどといった

特別の能力をもっている者」の話や、「ムヌマイー(人が神隠しにあったように、一種の魂である「もの」につかまり、突然行方不明になること)」についても述べています。

…(略)…翁長ではムヌマイーをした者があつて、これは村に近い洞窟で発見された。また、沼の中から発見された女もいたという…(略)…

「いちじま」は生き魂? 「かなぶい」は…優っていること? 「ムヌマイー」はもの迷い?

春潮の著を読み、今回の調査でお話をうかがつてみて、改めて現代社会ではあまり語られない、超自然的ともいえる俗信や習俗、そしてそれをあらわすたくさんのお話に対する探究心がわいてくるのであります。おっとその前に、それらのことを理解するには、もう少し方言の勉強をしなければ…トホホ。